TOKYO BAPTIST CHURCH 東京バプテスト教会
Weekend Message
週末メッセージが聞けます http://tokyobaptist.org/sermons/

神さまの知恵　私の召し
コリントの信徒への手紙一　1:1-9

2024 年 9 月 14 日 & 15 日
余沢　武　牧師

I. はじめに

こんにちは。今週は、コリントの信徒への手紙一より、「神さまの知恵」という新しいメッセージシリーズを始めます。

①　　コリントの信徒への手紙一は、使徒パウロによって書かれ、ソステネが共著者として記されています。

②この手紙は「コリントにある神の教会」宛てに書かれました。コリントは、ギリシア南部とギリシア本土とを橋のようにつなぐ、小さな土地に位置していました。左にはイオニア海、右にはエーゲ海がありました。

この2つの海は9km（6 マイル）に及ぶ「ディオルコス」と呼ばれる舗装された道路によってつながっており、人々はこの道路に舟を引き上げて、反対側の海へと引っ張って近道にしていました。これによって、コリントは商業の中心となり、国際的で裕福な商業都市へと発展し、世界中の人々が訪れました。まるで東京のようです。

③この教会はパウロによって、2 度目の宣教旅行中に設立されました。

紀元 50 年頃、パウロはこの教会を立ち上げ、18 ヶ月間滞在しました。

その後パウロはエフェソから、いくつかの問題に言及すべく、コリントに手紙を送りました。この手紙は「この前の手紙」として知られています。（コリントの信徒への手紙一 5:9）

そしてコリントからパウロへ手紙が送られました。（コリントの信徒への手紙一 7:11）

クロエの家の人たちとステファナの家族がパウロに様子を報告しました。（コリントの信徒への手紙一 1:11、16:17）

紀元 55 年の春、パウロは「コリントの信徒への手紙一」をエフェソからコリントへ送りました。

④パウロがコリントの信徒への手紙一を書いたのは、クリスチャンの価値観や教会の行いが、社会の価値観や行いに染まり始めたからです。このような状況下で、福音がどのように適応されるべきかをこの手紙は教えています。

私たちも、東京という豊かな国際都市に住んでおり、私たちの思考はマスコミやソーシャルメディアにさらされています。この手紙を通して、私たちは多くのことを学ぶことができると信じます。まず祈りましょう。

II.　あなたの召し
（1）キリスト・イエスにあって聖なる者とされた

コリントの信徒への手紙一 1:1－3
1 神の御心によってキリスト・イエスの使徒として召されたパウロと、兄弟ソステネから、2 コリントにある神の教会と、キリスト・イエスにあって聖なる者とされた人々、召された聖なる者たち、ならびに至るところで私たちの主イエス・キリストの名を呼び求めるすべての人々へ。イエス・キリストは、この人たちと私たちの主です。3 私たちの父なる神と主イエス・キリストから、恵みと平和があなたがたにありますように。

パウロは、自分が「神の御心によってキリスト・イエスの使徒として召された」という記述で手紙を書き始めています。つまり、パウロは神によってイエスの代理として召されたということです。私たちがこの手紙を読むに当たって、手紙の内容がパウロの意見ではなく、神様からの指示であることを、パウロは知って欲しかったのです。

この手紙はコリントで集う「神の教会」に宛てられていました。それは「キリスト・イエスにあって聖別された人々」の集まりで、「聖なる者たち」とも呼ばれています。

人が：
① 自分は罪人であり、真に罪深い存在であると認め、
② イエスが自分の罪のために死に、復活されたことを受け入れ、
③ 神に赦しを請い、自分を変えていただくよう求めるとき、
④ その人は聖別され、「聖なる者」とされます。

英語の「sanctified 聖別された」と「saints 聖なる者たち」はどちらもヘブライ語の「ガドシュ gadosh」に相当する「holy 聖い」という単語に由来しています。「ガドシュ」には「引き離す」とか「別に取り置く」という意味があります。

神を礼拝するという目的のためだけに、神殿の全ての物が「ガドシュ Gadosh」すなわち聖別され、特別に取り置かれていたように、神の教会においても、全てのクリスチャンは、その人生をもって神を礼拝するためだけに、聖なる者とされ、聖く、聖別され（「Gadosh」）ています。

しかしパウロは、コリントの信徒たちに、彼らだけが聖なる者とされたのではないことを理解させたいと思いました。パウロは、彼らは「至るところで私たちの主イエス・キリストの名を呼び求めるすべての人々」と共に、聖なる者とされた、と言っています。

最近までオリンピックが開催されていました。面白いのは、あるスポーツをしている人は、近隣の町のライバルのことだけを考えるかもしれませんが、実はそのスポーツは世界中でプレーされていることです。

例えば、あるサッカー選手は、自分が対戦するいくつかのチームのことだけを考えるかもしれません。それが彼にとってのサッカーの世界かもしれません。しかし、オリンピックを見れば、同じスポーツが、全ての国、町、ヨーロッパ、アジア、中東、アフリカ、オーストラリア、ニュージーランド、北米、南米など至るところで行われているのがわかります。

同じルール、同じ技、同じ用語を使っています。一人のサッカー選手は、世界規模のサッカーコミュニティの一員に過ぎません。

クリスチャンの皆さん、私たちも同じことをしてしまいがちです。「私たち」が教会であり、「私たち」がクリスチャンであり、「私たち」が特別な神の民であると考えてしまうのです。自分が知っているいくつかの他の教会くらいは、その中に含めるかもしれませんが。

でもパウロは言います。「でも、あなたたちだけではありません。どこにいようとも、イエス・キリストの名を呼び求める全ての人たちも同じです。世界中に、イエス様を呼び求める人が何百万人といます。神さまの目には、私たち全員が、一つの「神の教会」を形成しているのです。

この神の教会は2つのことに依存しています。パウロは、「私たちの父なる神と主イエス・キリストから、恵みと平和があなたがたにありますように。」と言っています。私たちは恵みと平和に依り頼みます。
① 「恵み」：私たちはこの恵みという贈り物を受け取るに値しません。でも私たちが（1）自分の罪を認め、（2）イエスの死は、自分の罪の罰であったことを認め、（3）イエスに赦しを請い、自分を変えていただくよう求めたとき、私たちは恵みを受け取ります。

② 「平和」：これは主に、神さまとの平和を意味します。クリスチャンにとっての「平和」とは、単に平和な感じや平穏な状態ではありません。神さまに常に語り掛け、神さまの声に耳を傾け、神に導かれ、守られ、神に依り頼む、神と調和した関係です。

私の父親は現在 93 才で、老人ホームで暮らしています。この施設は、家族の誰かが来て、付き添わない限りは父の外出を認めません。そのため、私たちはできるだけ頻繁に父を連れて外出するようにしています。父の足はとても弱っているので、外出時は車いすを借ります。

ですから父の外出時は、いつも私たちが車いすを押し、共に時間を過ごし、語り、食事をし、一緒に色々なことを行い、様々な場所に出向きます。スーパーやレストランをはじめ、あらゆる場所に。私たちは一緒にいる間、絶えず父に心を配っています。

「神さまとの平和」を得る、とはこのようなことです。違いは、神さまとの平和は24時間週7日で絶え間なく、世話をされるのは私たちであるということです。神はいつも私たちと共にいて導き、時間を過ごし、食事をし、様々なことを一緒に行い、スーパー、レストラン、仕事、家、教会などあらゆる場所に一緒に来ます。

パウロは、「私たちの父なる神と主イエス・キリストから、恵みと平和があなたがたにありますように。」と言っています。

(2)神の恵み

4－7節：4 私は、あなたがたがキリスト・イエスにあって与えられた神の恵みのゆえに、いつも私の神に感謝しています。5 あなたがたはキリストにあって、言葉といい、知識といい、すべての点で豊かにされたからです。6 こうして、キリストについての証しがあなたがたの間で確かなものとなったので、7 その結果、あなたがたはどんな賜物にも欠けるところがなく、私たちの主イエス・キリストが現れるのを待ち望んでいます。

私たちが恵みと平和を受け取るとき、2つのことが変わります：＃1私たちの言葉　＃2私たちの知識

① 「言葉」とは、私たちの教え、個人的な証、賛美、祈り、告白、感謝など、私たちの内に働く神の御業の結果として、私たちの口から出る全ての言葉のことを指します。
② 「知識」とは、私たちの霊的な知恵、理解、洞察力などです。

私たちの内に働く神の御業の結果として、私たちが霊的な知恵をもって言葉を発するとき、パウロは「キリストについての証しがあなたがたの間で確かなもの」となる、と言います。私たちの言葉と知識が、キリストの福音が真実であることを証明するということです。

日本には数多くの予備校があります。どこも自分たちが一番だと言います。それが真実かどうか、どうしたら分かるでしょう。予備校は、優秀な学校に入学した生徒数を公表しますよね。100人の生徒を東京大学に送り出したと言えば、それが彼らの主張を確かなものとする証となります。

同じように、私たちがイエス様について語ることが真実であると、人々はどうしたらわかるでしょう。パウロによると、私たちの霊的な知恵から出る言葉と理解によってです。私たちの主張は、これらによって確認されます。

(3)神さまからの召し

8－9節：8主も、あなたがたを最後までしっかり支えて、私たちの主イエス・キリストの日に、非の打ちどころのない者にしてくださいます。9 神は真実な方です。この方によって、あなたがたは神の子、私たちの主イエス・キリストとの交わりに招き入れられたのです。

ここでようやく、なぜ神さまが私たちを聖別したのか、なぜ私たちは神さまの恵みと平和を必要とするのか、なぜ私たちの言葉と考えが変わらなければならないのかが見えてきます。パウロは、「この方によって、あなたがたは神の子、私たちの主イエス・キリストとの交わりに招き入れられたのです。」と言っています。これが私たちの召しだからです。

「イエス様との交わり」は特別な意味を持ちます。それはただ共にいるということではありません。スイスの神学者、フリードリヒ・ルイス・ゴデは、これを「キリストの人生に参加する」と表現しています。私たちはキリストの十字架の死、復活、完全な性質と命に共に参加するのです。

イエス様との交わりをもって初めて、私たちはお互いと真の交わりを持つことができます。

他の人と交わる時、私たちはイエス様と共にあり、イエス様に依り頼み、イエス様に話しかけます。そして、私たちはイエス様のように考え、イエス様のように話し、イエス様のように行動し、イエス様と完全に一致した者へと成長していきます。
① これは、単に「イエス様だったらこうするだろう」と考えることだけではありません。私たちはイエス様の人生に参加し、イエス様は私たちの人生に参加するのです。私たちはイエス様がなされることの媒体となるのです。
② またこれは、イエス様のような良い夫、妻、親、従業員になるよう努力するというだけではありません。むしろ私たちを通して、イエス様に夫、妻、親、従業員になってもらうということです。

イエス様と交わりを持ち、イエス様の命に参加するならば、私に関する全てが変わります。どのように人に挨拶をするか、どのように人を見るか、全てが完全に違ってきます。
私が今気にかけていることのほとんどは、どうでもよくなることでしょう。

それよりも、神さまと、他の人たち一人ひとりに対する私の愛が、自分では考えられないような水準まで増し加わっていきます。

これが、イエス様との交わりです。これが、私たちの召しです。

① コリントのある人々は、これを忘れてしまい、人生や教会で様々な問題に陥っていました。

② 私たちの中にも、人生や教会の中で、様々な理由によって問題に直面している人々がいます。

パウロは、この召しにコリントの焦点を戻させるべく、この手紙を書きました。これを知らなければ、私たちは問題を解決することができないからです。全てはイエス様を自分の救い主として受け入れるところから始まります。もしあなたがまだイエス様を受け入れていないなら、これが最初に踏み出す一歩です。ぜひ、今日そうしてください。

クリスチャンのみなさん。自分たちが誰かを忘れないでください。神の教会は、恵みと平和を持つべく、取り分けられたのです。「イエス様との交わりをもつ」という召しを私たちが実行するにつれ、私たちの言葉と思考が完全に変えられるように。

これから先の数週間、この手紙を通して、さらに学んでいきたいと思います。

指定のない限り聖書は協会共同訳を使用しています。
聖書 協会共同訳: ©日本聖書協会
Japan Bible Society, Tokyo 2018

キリストのことをもっと知りたい
洗礼を受けたいという方はこちら
メール：cc@tokyobaptist.org
もしくは：https://t-b-c.us/cc

TBC Life 申込み
（毎週届くメールニュース）
http://t-b-c.us/tbclife

SG レッスンの PDF
https://t-b-c.us/sg3824jp

★クラス 201
霊的成長について
9月22日（日）1:00pm - 5:00pm
参加条件：クラス 101 を修了し、メンバーの方
https://t-b-c.us/classes

オンライン献金
http://t-b-c.us/give

スモールグループ参加申込み
http://t-b-c.us/sgsu